

2020年度 高等学校卒業式「学校長式辞」 2021年3月1日

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心からお祝い致します。さて、皆さんは逗子開成を卒業し、それぞれまたあらたな一步を踏み出すこととなります。この先どのような人生を歩むのでしょうか。「悔いのない人生を！」などと言いますが、まったく後悔のない人生をおくることができる人は、この世の中にほとんどいないでしょう。これからの人生において、なんでも自分の望んだとおりに物事が進むとは思えません。朝食に何を食べるか、今日どんな服を着るかなど日常のことから、学校の選択、就職、結婚など人生は選択の連続です。シェークスピアは「人生は選択の連続である」と言っています。しかしながら自分の思うようにいかないと、ついついあのかたき A ではなく B を選んでいけばなどと考えてしまいます。選択しなかったことについては経験していないのだから、どっちが良かったかという判断はできないはずですが。現状がうまく行かないからと言って不平不満を言っても進歩はありません。選択したところで踏ん張るしかないのです。

ここで、2人の人物を紹介したいと思います。相対性理論で有名なアインシュタインは、大学入試に失敗しています。今風に言うとチューリッヒ工科大学に一浪し入学したものの、卒業後は2年間定職に着けずやっとスイスの特許庁で働くことになりました。しかもコネで何とか入れてもらったのです。自分が目標とし目指していた物理学者とはかけ離れている仕事でした。それでもここで地道に働きながら、後にノーベル物理学賞を受賞することになった「光量子仮説」と「特殊相対性理論」の2つの論文を書いています。そして、その後は大学の物理学教授となり大活躍したのです。

もう一人は、江戸時代に初めて日本の精巧な地図を作った伊能忠敬です。彼は養子として伊能家に入ったあと、商売で大成功し名主としても人望を集めていましたが、49歳で隠居し息子に家督を譲りました。その後50歳のときに江戸に出て、幼少の頃から興味があった天文学を学ぶため、幕府天文方の高橋至時に弟子入りしています。このときの師匠である至時は30歳で20歳も年下です。そして、55歳から亡くなる73歳まで、日本中を歩いて測量し地図を作成したのです。本当にやりたいことを心の中に秘め、若い頃は与えられた仕事に励み、50歳を過ぎてからその夢を実現したのかも知れません。この2人の例を見るまでもなく、多くの場合自分の思い描いたとおりに人生が進む訳ではありません。むしろ、自分が考えもしなかったことが起こるのが人生ではないでしょうか。だから面白いとも言えるでしょう。

人生は選択の連続です。選択することを恐れてはいけません。大いに迷いもがいてください。それでも前に進むことが大切です。まずは与えられた場で精いっぱい頑張ってみましょう。これが経験となって次のステップで生かせるはずですが。

逗子開成の教育の原点は、校名の由来ともなっている「開物成務」にあります。これは“人間性を開拓・啓発し、人としての務めをなす。”という意味でした。この「開物成務」の精神に基づき、高い目標を掲げ、困難にあっても挫けることなく、自分の未来を切り開いていってください。思うようにいかないとき、苦しいときには中高6年間一緒に学んだ友人や先生方、家族のみなさんなどが支えとなってくれるでしょう。そして、自分自身の幸福を追い求めるだけでなく、社会に貢献できるような、人に何かを与えられるような人生を歩むことを期待しています。逗子開成の6年間で学んだことや体験したことは、このコロナ禍で経験したことも含め全て皆さんの大きな力になると信じています。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様。本日はご息のご卒業、本当におめでとうございます。また、今日まで本校の教育活動にご協力、ご理解をいただきありがとうございました。今回の卒業式は、新型コロナウイルスの影響で通常より簡素化し出席者も制限させていただきました。しかし、教職員一同、卒業生に対するお祝いの気持ちには変わりはありません。それでは、265名の卒業生の皆さん一人ひとりの旅立ちを祝うとともに、これからの健闘と活躍を祈り式辞と致します。卒業おめでとう。